

山形県の農林水産業の概要

特徴・取組

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、総面積は9,323km²、東京から概ね北に300km、山形新幹線で約3時間の距離にある。

日本百名山である蔵王（ざおう）、月山（がっさん）、鳥海（ちょうかい）、吾妻（あづま）の山々や、飯豊（いいで）、朝日（あさひ）連峰に囲まれ、県南部を源流とする最上（もがみ）川が、米沢盆地から山形盆地、新庄盆地へと北上して周辺の農地を潤し、やがて、庄内平野の穀倉地帯を経由して日本海に注ぎ込んでいる。

産業構造は、就業者数（平成27年）を産業別にみると、第1次産業が9.4%、第2次産業が29.1%、第3次産業が61.5%となっており、約10人に1人が農林水産業に従事している。

日本海側の庄内地方は多くの河川が流れる肥沃な大地で、日本有数の穀倉地帯となっている。

一方、村山地方を始めとする内陸部は、一日の温度変化や季節の温度変化が大きく、収穫量日本一を誇るおうとう（さくらんぼ）や西洋なし等の果樹栽培が盛んに行われている。また、すいかやそば等の栽培も盛んである。

令和3年度食味ランキングでは山形県産米の「つや姫」が、平成22年デビュー後、12年連続「特A」評価を獲得し、全国トップブランドとしての評価が定着。平成30年本格デビューした「雪若丸」も4年連続「特A」評価を獲得し、ブランドの確立を目指している。また、おうとう（さくらんぼ）大玉新品種の「やまがた紅王（べにおう）」は、産地への導入が順調に進んでおり、令和4年の先行販売開始を見据えた早期ブランド化を進め、県産農畜産物の地理的表示（GI）登録では、米沢牛、東根さくらんぼ、山形セルリー、小笹うるい及び山形ラ・フランスのブランド力強化の取組が行われている。

全国に誇る豊かな農林水産物と魅力ある地域資源（自然、食文化、伝統）を活かし、「農」「食」「地域」「他分野・他産業」が相互に連携・協働することで農林水産業を起点とした新たな価値を創出・増幅させ、「農林漁業者の所得の向上」「地域全体の所得・付加価値の向上」と「働く場の創出」を図るとともに、「農山漁村の活性化」の実現を目指している。

主な農林水産物

おうとう(さくらんぼ)

全国の7割以上の収穫量を占める。主要品種である「佐藤錦」をはじめ、「紅秀峰」、「紅さやか」等、多くの栽培品種がある。
(収穫量全国1位)



西洋なし

地理的表示（GI）登録された「山形ラ・フランス」が栽培面積の8割を占め、県のオリジナル新品種「メロウリッチ」の導入が進んでいる。
(収穫量全国1位)



すいか

尾花沢市を中心とした村山地域は、夏すいかの産地として、高い評価を得ている。
(収穫量全国3位)



ぶどう

主力品種の「デラウェア」をはじめ、「シャインマスカット」などの大粒種も導入されている。
(収穫量全国3位)



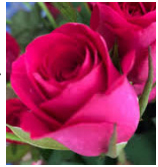
米

主力品種の「つや姫」や「はえぬぎ」が県内全域で作付されている。
(収穫量全国4位)



ばら(切り花類)

寒河江市、山形市を中心に生産が盛んで、日本有数の産地を形成。ロックウール栽培による周年栽培が主流。
(出荷量全国3位)



えだまめ

全国的なブランドとなった「だだちゃ豆」や晩生の「秘伝豆」等の品種がある。
(収穫量全国5位)



そば

全国有数のそば生産県である。村山地域には、「そば街道」があり、観光と一体となった生産振興が図られている。
(収穫量全国5位)



肉用牛

地理的表示（GI）登録された「米沢牛」を始め、高品質な「山形牛（総称）」の生産拡大を図っている。



なめこ

菌床なめこの生産量は、毎年4,000t以上も全国に向け出荷され、全国有数の産地として確立。
(生産量全国2位)



山形県内の各地域における農林水産物

庄内（しょうない）地域

【農畜産物】

水稲、えだまめ、メロン、ねぎ、日本なし、アスパラガス、かき、アルストロメリア、トルコギキョウ、豚

【水産物】

スルメイカ、はたはた、まだら、さけ類、さくらます、ほっけ

最上（もがみ）地域

【農畜産物】

水稲、そば、にら、アスパラガス、ねぎ、トマト、マッシュルーム、りんどう、ばら、トルコギキョウ、肉用牛

【林産物】

わらび、なめこ、えのきたけ、たらの芽、すぎ

置賜（おきたま）地域

【農畜産物】

水稲、えだまめ、アスパラガス、きゅうり、おうとう（さくらんぼ）、西洋なし、ぶどう、りんご、ダリア、アルストロメリア、啓翁桜、乳用牛、肉用牛、豚

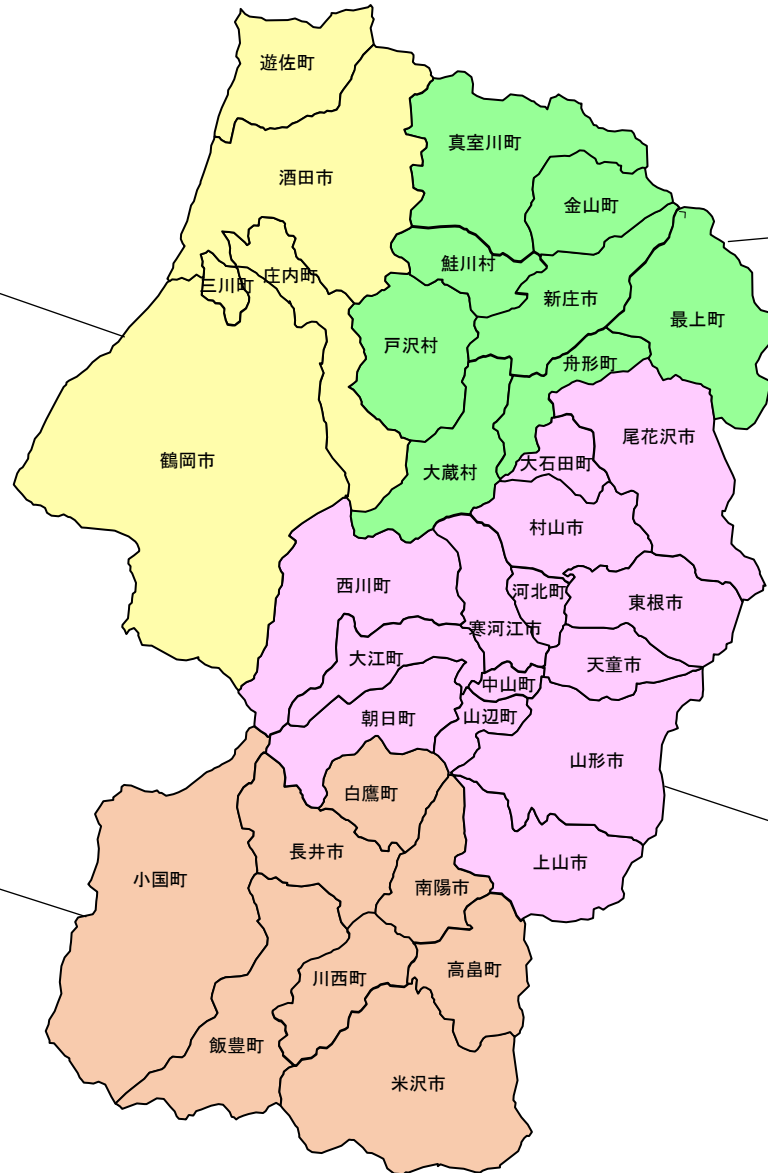
【水産物】こい

【林産物】わらび

村山地域

【農畜産物】

水稲、そば、えだまめ、すいか、きゅうり、セルリー、うるい、おうとう（さくらんぼ）、西洋なし、ぶどう、りんご、すもも、もも、ばら、ストック、啓翁桜、肉用牛、豚



山形県の農業（1）

- ・耕地面積は11万5,800haで全国第11位。内訳は、田が9万1,600haで9位、畑が2万4,200haで19位。
- ・総農家数は3万9,628戸、うち販売農家数は2万6,796戸。
- ・基幹的農業従事者に対する65歳以上の割合は68%を占める。

耕地面積

区分	山形県	全国	全国順位
耕地面積	115,800 ha	4,349,000 ha	11
田	91,600 ha	2,366,000 ha	9
畑	24,200 ha	1,983,000 ha	19
普通畑	11,900 ha	1,126,000 ha	20
樹園地	10,100 ha	263,200 ha	8
牧草地	2,190 ha	593,400 ha	13
参考) 総土地面積	932,313 ha	37,797,463 ha	9

出典：「令和3年耕地面積(7月15日現在)」、「令和3年全国都道府県市区町村別面積調」(国土交通省国土地理院)

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区分	山形県	全国	全国順位
農業経営体数	28,241 経営体	1,075,705 経営体	18
法人経営体	626 経営体	30,707 経営体	22
総農家数	39,628 戸	1,747,079 戸	20
販売農家	26,796 戸	1,027,892 戸	18
参考) 世帯総数	398,015 世帯	55,830,154 世帯	38
集落営農数	479 集落営農	14,490 集落営農	13

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「集落営農実態調査(令和3年2月1日現在)」

荒廃農地面積

区分	山形県	全国	全国順位
荒廃農地面積	2,443 ha	281,831 ha	35

出典：「令和2年の都道府県別の荒廃農地面積」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区分	山形県	全国	全国順位
基幹的農業従事者数	39,034 人	1,363,038 人	12
男	24,620 人	822,144 人	11
女	14,414 人	540,894 人	16
65歳以上	26,645 人	948,621 人	14
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	68.3 %	69.6 %	-
認定農業者数	9,400 経営体	233,806 経営体	6
法人数	552 法人	26,080 法人	20
参考) 総人口数	1,068,027 人	126,146,099 人	36

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和2年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

担い手への農地の集積状況

区分	山形県	全国	全国順位
担い手への集積面積	78,871 ha	2,535,115 ha	6
集積率	67.5 %	58.0 %	5

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和2年度版)」

注：農地中間管理機構を介さないものを含む。
令和3年3月末の数値である。

山形県の農業（2）

- ・農業産出額は2,508億円で全国第13位。
- ・農畜産物の生産状況は、西洋なし及びおうとうが全国第1位。すいか、ぶどう、ばら、りんどう、アルストロメリアが3位。
- ・農業者等による生産関連事業は、農産物直売所の年間販売金額が215億1,200万円。

農業産出額

区分	山形県	全国	全国順位
農業産出額	2,508 億円	89,557 億円	13
米	837 億円	16,551 億円	4
麦類	x 億円	521 億円	- *
雑穀	4 億円	77 億円	6
豆類	11 億円	712 億円	14
いも類	4 億円	2,391 億円	46
野菜	465 億円	22,520 億円	18
果実	729 億円	8,741 億円	4
花き	68 億円	3,080 億円	12
工芸農作物	3 億円	1,553 億円	31
その他作物	x 億円	697 億円	- *
畜産	376 億円	32,279 億円	25
肉用牛	115 億円	6,863 億円	18
乳用牛	85 億円	9,310 億円	21
生乳	74 億円	7,798 億円	21
豚	137 億円	6,596 億円	15
鶏	35 億円	8,724 億円	37
鶏卵	13 億円	4,577 億円	40
ブロイラー	x 億円	3,621 億円	- *
その他畜産物	4 億円	787 億円	13
加工農産物	3 億円	436 億円	18

農畜産物の生産状況

区分	年次	山形県	全国	全国順位
西洋なし	収穫量 R2	19,100 t	27,700 t	1 *
おうとう	収穫量 R2	13,000 t	17,200 t	1 *
すいか	収穫量 R2	28,500 t	310,900 t	3
ぶどう	収穫量 R2	15,500 t	163,400 t	3
ばら	出荷量 R2	14,700 千本	200,800 千本	3
りんどう	出荷量 R2	7,220 千本	81,700 千本	3
アルストロメリア	出荷量 R2	6,430 千本	54,300 千本	3
水稻	収穫量 R3	393,800 t	7,563,000 t	4
りんご	収穫量 R2	41,500 t	763,300 t	4 *
メロン	収穫量 R2	10,600 t	147,900 t	4
もも	収穫量 R2	8,510 t	98,900 t	4
肉用牛	飼養頭数 R3	40,900 頭	2,605,000 頭	18

出典：「果樹生産出荷統計」、「野菜生産出荷統計」、「花き生産出荷統計」、「作物統計」、「畜産統計」
注：「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区分	山形県	全国	全国順位
農産物直売所	総額	21,512 百万円	1,053,366 百万円
	事業体数	700 事業体	23,650 事業体
農産加工	総額	9,418 百万円	946,841 百万円
	事業体数	700 事業体	32,400 事業体
観光農園	総額	982 百万円	35,943 百万円
	経営体数	210 経営体	5,290 経営体

出典：「令和元年度6次産業化総合調査」

出典：「令和2年生産農業所得統計」

注：1 「全国」の値は、都道府県別に推計した農業産出額を合計した値であり、全国推計した農業総産出額とは一致しない。

2 「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

令和4年3月10日時点における最新の統計等の公表データを使用

山 形 県 の 林 業

- ・ 林業産出額は66億円で全国第22位。
- ・ 林産物の生産状況は、わらびが202.7 t で全国第1位、なめこが4,458.4 t で2位。
- ・ 製材工場数は100工場。

林野面積

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
林野面積	644,986 ha	24,770,201 ha	8
国有林	328,051 ha	7,153,338 ha	6
民有林	316,935 ha	17,616,863 ha	24
人工林面積	185,636 ha	10,203,842 ha	24

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「森林資源の現況(平成29年3月31日現在)」

林業経営体数

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
林業経営体数	451 経営体	34,001 経営体	28
法人経営体	68 経営体	4,093 経営体	23

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業産出額

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
林業産出額	66.0 億円	4,286.4 億円	22
木材生産	24.5 億円	1,943.7 億円	23
栽培きのこ類生産	39.6 億円	2,259.6 億円	16

出典：「令和2年林業産出額」

注：「全国」の値は、都道府県別に推計した林業産出額を合計した値であり、全国推計した林業産出額とは一致しない。

林産物の生産状況

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
素材生産量	266 千m ³	19,882 千m ³	23
針葉樹	262 千m ³	18,037 千m ³	21
からまつ	7 千m ³	2,008 千m ³	11
すぎ	250 千m ³	11,663 千m ³	15
広葉樹	4 千m ³	1,845 千m ³	36
わらび	生産量 202.7 t	509.9 t	1
なめこ	生産量 4,458.4 t	22,835.3 t	2 *
えのきたけ	生産量 1,332.5 t	127,914.2 t	7 *
ぶなしめじ	生産量 1,043.8 t	122,802.2 t	10 *
まいたけ	生産量 186.9 t	54,993.4 t	10 *

出典：「令和2年木材需給報告書」、「令和2年特用林産基礎資料」

注：「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

製材工場数

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
工場数	100 工場	4,115 工場	16
製材用素材の入荷があった工場数	100 工場	4,067 工場	15
国産材のみ	82 工場	3,237 工場	18
国産材と輸入材	18 工場	653 工場	15

出典：「令和2年木材需給報告書」

令和4年3月10日時点における最新の統計等の公表データを使用

山 形 県 の 漁 業

- ・海面漁業・養殖業産出額は20億円で全国第39位。
- ・水産物の生産状況は、さけ類（内水面漁業）が全国第2位、ほっけ（海面漁業）が4位。
- ・漁業者等による生産関連事業は、水産加工の年間販売金額が1億2,500万円。

漁船隻数

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
漁船隻数	395 隻	132,201 隻	39
動力漁船	177 隻	69,920 隻	39

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

注：漁船隻数は、海面漁業経営体が漁業生産のために使用した漁船の数である。

漁業経営体数

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	284 経営体	79,067 経営体	38
内水面漁業経営体数	60 経営体	4,772 経営体	22

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	368 人	151,701 人	39
男	358 人	134,186 人	39
女	10 人	17,515 人	39

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁業産出額

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	20 億円	13,484 億円	39

出典：「令和元年漁業産出額」

水産物の生産状況

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	4,399 t	4,182,983 t	37 *
海面漁業漁獲量	4,399 t	3,213,334 t	38
ほっけ	323 t	41,052 t	4 *
まだら	449 t	56,306 t	9
内水面漁業・養殖業生産量	546 t	50,832 t	15 *
内水面漁業漁獲量	448 t	21,745 t	6 *
さけ類	416 t	6,609 t	2 *
内水面養殖業収穫量	98 t	29,087 t	24 *
こい	42 t	2,247 t	5 *

出典：「令和2年漁業・養殖業生産統計」

注：1 「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

注：2 海面漁業・養殖業生産量は、当該都道府県に所在する漁業・養殖業経営体の生産量である。

注：3 東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けた区域において、同事故の影響により出荷制限又出荷自粛の措置がとられたものについては、生産量に含めていない。

漁業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区 分	山 形 県	全 国	全国順位
水産加工	総額	125 百万円	175,132 百万円 37
	事業体数	10 事業体	1,500 事業体 28
漁家民宿	総額	86 百万円	6,659 百万円 19 *
	事業体数	10 経営体	900 経営体 18 *

出典：「令和元年度6次産業化総合調査」

注：「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

山形県の農林水産業の話題等

食料供給県やまがたのさらなる発展に向けた取組

山形県は、人口減少・高齢化等による担い手の減少、中山間地域等における集落機能の低下による耕作放棄地の増加、自然災害や豚熱の発生などに加え、コロナ禍における生産・消費への影響等の課題を踏まえ、令和3年3月に、令和6年度までの実行計画として「第4次農林水産業元気創造戦略」を策定した。

この実行計画は、「人（ひと）づくり」「農村（むら）づくり」「魅力（かち）づくり」「森林（もり）づくり」「海川（うみかわ）づくり」の5つの基本戦略を進めており、令和4年度は、担い手減少を見据えた産地振興や気象災害対策強化による「果樹王国やまがた」の再生・強靱化、森林吸収源対策の強化による脱炭素社会の構築に向けた「やまがた森林ノミックス」の推進、みんなが使えるスマート農林水産業の実現に向けたデジタル技術の実装等に取り組んでいる。

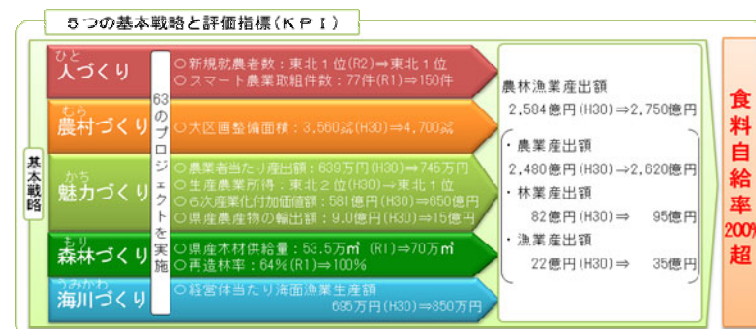
持続可能なまちづくりの取組

飯豊町は、日本三大和牛といわれる「米沢牛」の4割を生産する産地で、家畜排泄物の処理が畜産振興上の大きな課題となっていたことから、令和2年6月に、東北おひさま発電(株)が食料産業・6次産業化交付金を活用し、肉用牛の排泄物を主原料としたものでは全国初となる「ながめやまバイオガス発電所」を建設し、同年10月から売電を始めている。

原料は隣接する牛舎から地下パイプラインで直接搬送するなど、環境に配慮した仕様となっており、発生させたメタンガスを燃料に発電を行っている。発電能力は500kW、年間の発電量は約360万kWh時で、一般家庭の約900世帯分に相当し、飯豊町全世帯の約4割が賄える規模となっている。

発電の際に発生する熱は、冬期間の発電所や牛舎敷地通路の融雪（ロードヒーティング）として利用している。また、メタン発酵残渣は良質な液肥や再生敷料として活用され、有機農業や耕畜連携への取組が期待されるなど、資源循環社会の構築に貢献する取組となっている。

※飯豊町は、平成29年10月「バイオマス産業都市」に認定、平成30年6月には「SDGs未来都市」に選定されている。



資料提供：山形県
山形県ホームページ：

<https://www.pref.yamagata.jp/documents/21028/01dai4jisenryakugaiyo.pdf>



発電施設



脱硫施設と発酵槽